



学校だより

令和5年1月31日

学校教育目標

2月号

ともに学び、創り出し、行動する子＝輝く自分 輝く鶴小＝

横浜市立 鶴ヶ峯小学校 (<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tsurugamine/>)



冬来たりなば 春遠からじ・・・

副校長 丹野悦子

先週は関東地方にも最強寒波が到来し、ウサギ小屋の前の池が見事に凍りました。噴水の筒は氷柱となり、はねた水は氷玉になっていました。もちろん水面はたたいても割れないほどの厚さの氷が張りました。それを見つけた1年生が「プールも凍っているかなあ。」とプールを覗いたところ、それほど凍ってはいませんでした。「同じ水なのにどうしてだろう。」と先生に話したそうです。



身近なひと・もの・ことから？(はてな)が生まれ！(わかった)になるまで探求することで“生きて働く力”が身についていきます。なぜ池とプールでは、違いがあったのでしょうか。「なぜだろう」「どうしてだろう」「こうなんじゃないか」「ああなんじゃないか」と思考することで脳が発達(活性化)するそうです。この1年生はたくさん考えて、自分なりの答えを出せたでしょうか。正解を当てることではなく、考えることが大事なのです。

つらい時期を過ごしている人にかける言葉に、「冬来たりなば 春遠からじ」という文句があります。なんとなく昔から言われている「ことわざ」のような感じがしますが、実はこれ、イギリスの詩人シェリーの長詩「西風に寄せる歌」の最末尾にある、“If Winter comes, can Spring be far behind?” が出典だそうです。古今東西、自然から教訓を得ることは多いようです。冬のつらい時期、地面には何も無いように見えても、植物は、硬い地面の下で芽吹く準備をしています。今は、冬(=頑張っているのになかなか成果が出なかったり、思い悩んでいた)だとしても、絶対に春(=成果や解決)はやってきます。毎年、冬の次には春が来るように・・・。



ところで、正門入って左手の植え込みとフェンスの間、何にも無いように見えますが、夏になると白いユリがこんな風に一面に咲くのをご存じですか。ユリたちは、今も地面の下で、花咲く日を夢見て一生懸命がんばっていることでしょう。

ユリもみんなも がんばれ!!

